

5 強い農林水産業育成プロジェクト

概要

「農林業の知と技の拠点」等を核として、担い手の安定的な確保を図るとともに、生産性の向上や需要拡大に資するデジタル技術の普及・定着、環境負荷の低減に向けた新技術の開発・導入、供給体制の強化等の取組を進めることで、強い農林水産業を育成する

重点施策

- 17 「担い手支援日本一」のさらなる強化
- 18 県産農林水産物の需要拡大
- 19 生産性と持続性を両立した県産農林水産物の供給体制の強化
- 20 生産や地域を支える基盤整備

(1) 成果指標の状況

成果指標	進捗状況	指標数	主な指標
	★★★★★(目標を達成)	2	地産・地消推進拠点の新規設置数 等
	★★★★(計画を上回る)	4	やまぐち農林漁業ステキ女子数 等
	★★★(ほぼ計画どおり)	2	農林漁業新規就業者数 等
	★★(計画を下回る)	4	中核経営体数 等
	★(計画から大幅に遅れ)	2	戦略作物の作付面積 等

(2) 県民実感に係る調査結果

調査区分	調査項目	そう思う	どちらでもない	そう思わない
県民実感度調査 (%)	農林水産物の地産・地消や6次産業化、担い手への支援など、農林水産業を振興するための取組が進んでいると思いますか。	13.1	47.5	37.1
	山口県には魅力ある県産農林水産物が多いと感じますか。	58.0	28.9	13.1
	県内で「地産」・「地消」の取組が進んでいると感じますか。	44.0	37.8	18.1

(3) 主な取組と成果

◆「担い手支援日本一」のさらなる強化

- 全国トップ水準の新規就業支援対策や県外都市部からの移住就業の促進、就業希望者向けの情報発信、「農林業の知と技の拠点」等を核とした新規就業者の確保・定着の取組を実施することで、**担い手を安定的に確保**。

農林漁業新規就業者数 862人(R4~R7年度)〔ほぼ計画どおり〕

- 女性が働きやすい環境の整備や、女性農林漁業者のネットワークづくりを支援するとともに、パンフレットや動画の制作等、ステキ女子プロモーション活動を実施することにより、経営発展に取り組む**「やまぐち農林漁業ステキ女子」の登録者数が増加**。

やまぐち農林漁業ステキ女子数 92人(R7年度末時点)〔計画を上回る〕

※農協役員に占める女性の割合2年連続全国1位

◆県産農林水産物の需要拡大

- 地産・地消推進拠点の認知度が向上するとともに、「ぶちうま！アプリ」を活用したキャンペーン、アプリ参加店舗や関係団体と連携したイベントの実施などにより**地産・地消の取組が拡大**。

地産・地消推進拠点の新規設置数 189施設(R4~R7年度)〔目標を達成〕

◆生産性と持続性を両立した県産農林水産物等の供給体制の強化

- 地域資源を活かした「山口県ならでは」の養殖業の振興や、やまぐち型養殖に新たにチャレンジする者へのスタートアップ支援を図ることで、**養殖業の成長産業化**の取組を推進し、「やまぐちほろ酔いとらふぐ酔虎」を創出。

基幹漁業及び養殖業の新興件数 5件（R7年度末時点）〔目標を達成〕

◆生産や地域を支える基盤整備

- 漁港近傍や漁港施設を有効活用することによって、温室効果ガスの排出源対策や吸収源対策として**藻場の造成と漁場の整備**。

漁港施設を有効活用した藻場造成箇所 R7：4箇所〔ほぼ計画どおり〕

(4) 総評

総
評

農林漁業新規就業者の確保・定着の取組や県産農林水産物の需要拡大の取組については、地産・地消の取組に対して多くの県民から肯定的な評価を得られているなど、一定の成果が現れているが、担い手の減少・高齢化は依然深刻な状況であり、また、食料の安定供給の確保といった課題への対応も必要であることから、生産性と持続性を両立した強い農林水産業の育成に向けた取組の強化が求められている。

(5) 課題と今後の展開方向

課
題
と
今
後
の
展
開
方
向

◆「担い手支援日本一」のさらなる強化

- 担い手の減少・高齢化が進む中、持続可能な本県農林水産業の実現に向け、若者・女性を含めた新規就業者の確保・育成に加え、就業後の定着支援や多様な働き方を推進するとともに、デジタル技術の活用等、中核経営体の経営基盤強化や労働環境の整備に取り組む必要がある。

◆県産農林水産物の需要拡大

- 収益性の高い持続可能な農林水産業の実現に向け、生産コストを適切に反映した価格形成に対する消費者の理解促進を図るとともに、より幅広い県民に実感される地産・地消の取組の強化と、大都市圏や海外への販路拡大をさらに進めることで、県産農林水産物のさらなる需要拡大を図る必要がある。

◆生産性と持続性を両立した県産農林水産物等の供給体制の強化

- 担い手の減少・高齢化、国際情勢の緊迫化、気候変動等により、食料需給を巡るリスクや食料価格の高騰が顕在化する中、改正された食料・農業・農村基本法に基づく国の政策にも呼応し、環境との調和を図りつつ、効率化・省力化や気候変動等への対応に向けたA X・D Xを推進するなど、安心・安全な食料を安定的に供給していくための取組を進めていく必要がある。

◆生産や地域を支える基盤整備

- スマート技術や高性能機械の導入効果を最大限発揮できるよう、農地の大区画化や水田高機能化、林内路網、漁港・漁場等の基盤整備を計画的に推進することによる生産性の向上に加え、地域の安全・安心な暮らしを支える持続可能な農山漁村づくりと、その多面的機能の維持・発揮につなげていく必要がある。

(参考) 令和 8 年度の主な新規・拡充取組

新 やまぐちの花ひらく需要拡大推進事業

花き産業及び花き文化の振興と活性化を図るため、花き交流拠点を活用した県産花きの新たな需要創出や多様な販路開拓、生産供給体制の強化を一体的に推進

新 やまぐち農産物等販売サーキット事業

県産農産物等の消費者への安定的な供給を行うため、消費者ニーズの把握による効率的な流通体制を整備

新 山口県産木材品質向上対策事業

県産木材供給量の増大を図るため、品質・性能が確かな J A S 材の安定的な供給体制を構築